

4 門
10 類
129 號

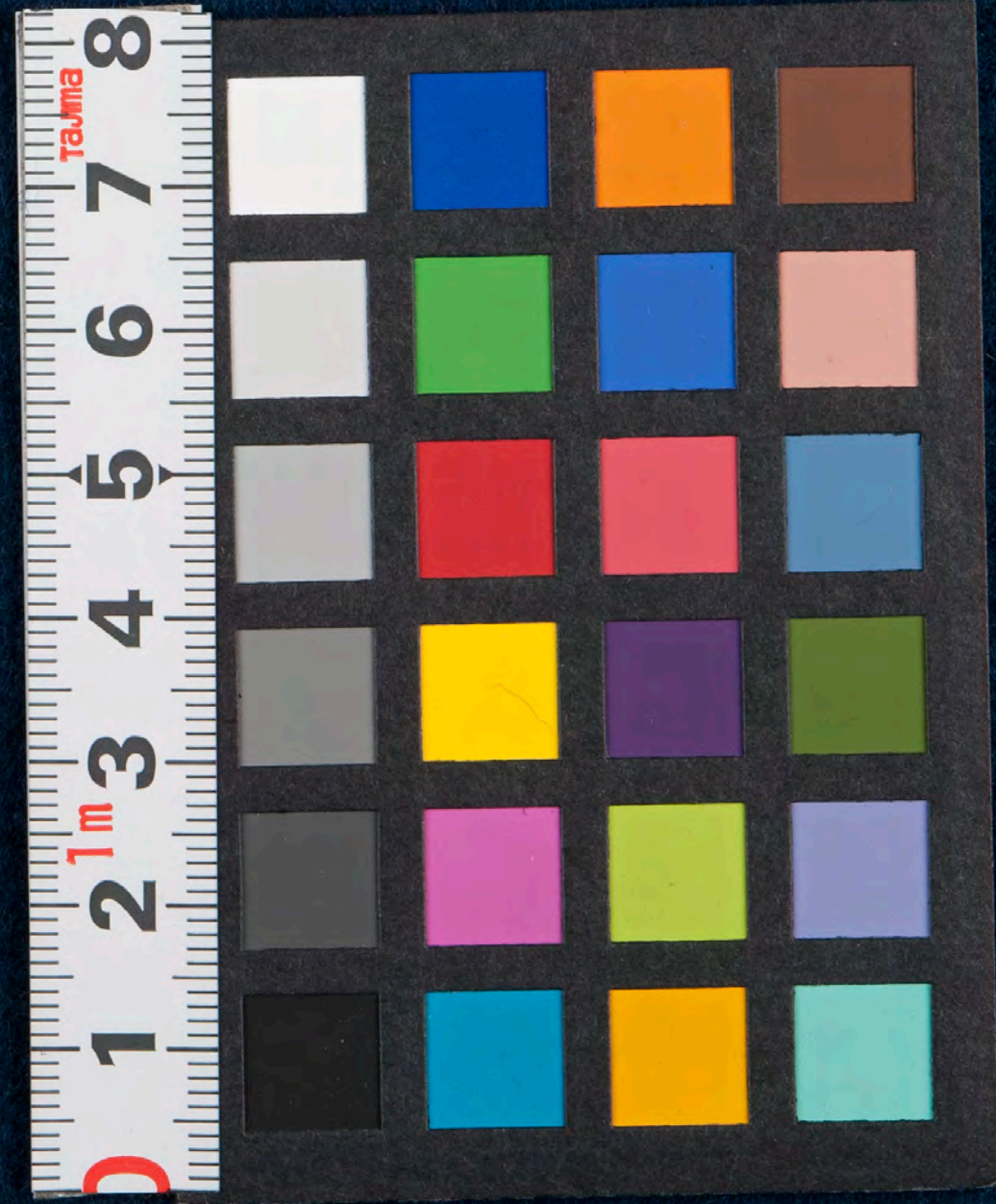
歴史科教採用参考掛圖解説

後チ足利

年八月

一 狛犬アリ、

権回復ヲ志シ給ヒ、儒學ヲ奨勵
カ御アラセラル、實算二十



目次

第一輯	一頁	第七輯	...
第二輯	六	第八輯	...
第三輯	一二	第九輯	...
第四輯	一七	第十輯	...
第五輯	二三	第十一輯	...
第六輯	二七	第十二輯	...

第一輯

後醍醐天皇宸影

後醍醐天皇ハ、第九十六代ノ聖主ニマシマシ、建武中興ノ大業ヲ遂ゲ給フ、後チ足利尊氏ノ叛スルニ及ビ、延元々年十二月神器ヲ奉ジテ、吉野ニ行幸シ給フ、同四年八月崩御アラセラル、寶算五十二、此ノ畫像、原圖ニハ御座ノ左ニ劔ヲ置キ、御後ニ帳臺アリテ、其前ニ獅子狛犬アリ、御座ノ前ニ白髪ノ公卿侍坐セリ、

後光明天皇宸影

後光明天皇ハ、第百九代ノ聖主ニマシマス、天資英邁朝權回復ヲ志シ給ヒ、儒學ヲ獎勵シテ、程朱ノ學ヲ興シ給フ、在位十二年、承應三年九月崩御アラセラル、寶算二十

北條時賴畫像

北條時賴ハ、泰時ノ孫ニシテ、時氏ノ第二子ナリ、兄經時ノ後ヲ繼ギテ執權トナリ、質素自ラ奉ジ、カヲ民政ニ注グ、康元々年疾ヲ以テ出家シ、最明寺ニ居ル、弘長三年十一月卒ス、年三十七、此ノ畫像、原圖ニハ宋僧道隆ノ賛アリ、

足利義滿畫像

足利義滿ハ、尊氏ノ孫ニシテ室町幕府ノ將軍タリ、累進シテ太政大臣ニ至ル、應永元年職ヲ子義持ニ譲リ、出家シテ金閣ニ住シ豪奢ヲ極ム、同十五年五月薨ズ、年五十一、鹿苑院ト稱ス、

此ノ畫像ハ、京都相國寺ノ所藏ニシテ、原圖ニハ應永三十一年鹿苑院周噩ノ賛アリ、

三條西實隆畫像

三條西實隆ハ、内大臣公保ノ子、内大臣正二位ニ至ル、入道シテ逍遙院堯空ト云フ、詩歌ヲ善クス、皇室式微ノ際、東西ニ奔走シ、諸豪ニ説テ御料ヲ上ラシム、天文六年十月薨ズ、年八十三、大正四年從一位ヲ贈ラル、

武田信玄畫像

武田信玄ハ、信虎ノ子ニシテ、名ヲ晴信ト云フ、信玄ハ其法名ナリ、甲斐ニ據リ、武略ヲ以テ聞ユ、天正元年四月歿ス、年五十三、大正四年從三位ヲ贈ラル、此ノ畫像ハ、信玄ノ子勝頼ノ高野山成慶院ニ納メタルモノニシテ、信玄ノ弟信廉ノ畫ク所ナリト云フ、

豐臣秀吉畫像

豐臣秀吉ハ尾張ノ人ナリ、初メ織田信長ノ賤卒タリシガ、拔擢セラレテ老臣ノ列ニ入ル、信長ノ薨後、天下ヲ統一シ、遂ニ支那、朝鮮征伐ノ軍ヲ起ス、天正十三年關白トナリ、從一位ニ叙セラル、慶長三年八月伏見ニ薨ズ、歳六十二、大正四年正一位ヲ贈ラル、此ノ畫像ハ、秀吉ノ近臣富田信廣ガ、主恩ヲ景仰シテ畫カシメタルモノニカ、ル、原圖ニハ僧承兌ノ贊アリ、

藤原惺窩畫像

藤原惺窩ハ冷泉爲純ノ子ナリ、幼時僧ト爲ル、後儒ニ歸シ、專ラ程朱ノ學ヲ唱フ、徳川家康ノ知遇ヲ蒙リ、徳望一世ニ高シ、林羅山、松永尺五等、其門ヨリ輩出ス、元和五年九月歿ス、年五十九、明治二十六年正四位ヲ贈ラル、此ノ畫像、原本ニハ林信篤ノ贊アリ、

支倉六右衛門畫像

支倉六右衛門ハ、伊達政宗ノ家臣ナリ、初メ徳川家康、のびすばにあ（新西班牙今ノめさしこ）ニ通商ヲ開カント欲シ、政宗ト謀リ、六右衛門ヲ政宗ノ使者トシ、家康ノ使者ト共ニ、往イテ交渉セシム、六右衛門等のびすばにやニ赴キ、更ニソノ本國西班牙ニ渡ル、尋デ羅馬ニ至リ、法王ハ一五世ニ謁シ、元和六年歸朝ス、此ノ畫像ハ、羅馬法王ヨリ、政宗ニ贈リタルモノニカ、ル、原圖ハ剝落甚シキガ爲メニ、服裝ノ形狀等模糊トシテ辨ジ難シト雖モ、六右衛門ガ耶蘇ノ像ニ對シ、合掌禮拜セル敬虔ノ情ハ、ヨク表ハレタルヲ知ルベシ、

山内一豐夫人畫像

山内一豐夫人ハ、近江淺井氏ノ家臣若宮氏ノ女ナリ、一意力ヲ内助ニ致シ、一豐ヲシテ後顧ノ憂ナカラシム、一豐ノ卒後、薙髮シテ見性院ト號シ、京都ニ住シ、元和三年十二月歿ス、年六十一、此ノ畫像ハ、原圖ニ元和四年妙心寺住持單傳士印ノ贊アリ、

徳川吉宗畫像

徳川吉宗ハ、和歌山藩主光貞ノ第三子ナリ、正徳六年入リテ宗家ヲ繼ギ、幕府中興ノ英主ト稱セラル、延享二年職ヲ子家重ニ譲リ、寶暦元年六月薨ズ、年六十八、此ノ畫像ハ、東叡山廟所木像ノ下畫ニシテ、狩野榮信ノ畫ク所ナリ、六十歳頃ノモノナルベク、ソノ面部ハ吉宗ノ自畫ニ係ルト傳フ、

徳川光圀畫像

徳川光圀ハ、家康ノ孫ニシテ、水戸藩主ナリ、大ニ文教ヲ興シ、彰考館ヲ置キテ、大日本史ヲ撰述ス、元祿十三年十二月薨ズ、年七十三、明治三十三年正一位ヲ贈ラル、此ノ畫像、原本ハ、法眼玄建、畫工ニ命ジテ畫カシメタルモノナリ、

第二輯

後白河天皇宸影

後白河天皇ハ、第七十七代ノ聖主ニマシマス、在位三年、御讓位ノ後、二條、六條、高倉、安德、後鳥羽ノ五帝三十有餘年ノ間院政ヲ視給フ、嘉應元年御出家、建久三年三月崩御アラセラル、寶算六十六、

後水尾天皇宸影

後水尾天皇ハ、第一百七代ノ聖主ニマシマス、在位十九年、慶安四年御出家、延寶八年八月崩御アラセラル、寶算八十五、此ノ宸影、原圖ニハ宸翰ヲ以テ、時ありて春をりそむる一花にみよひとはなの咲のこるかは、身はかくて又もこぬ世に水莖の跡たにまはしと、めんもうき」ノ御製ヲ題セラル、

平重盛畫像

平重盛ハ、清盛ノ長子ナリ、正二位内大臣ニ進ム、資性忠謹平氏ノ柱石ト目セラル、
治承三年七月薨ズ、年四十二、
此ノ畫像、原本ハ藤原隆信ノ筆ト傳ヘラル、隆信ハ似繪ノ名手ニシテ、重盛ト其時代
ヲ同ジウセリ、

足利義教畫像

足利義教ハ、義滿ノ子ナリ、初メ青蓮院ニ入リテ僧トナル、兄義持薨ズルニ及ビ、將
軍ノ職ヲ繼グ、資性峻嚴、假借スル所ナシ、嘉吉元年六月赤松滿祐ノ爲ニ弑セラル、
年四十八、
此ノ畫像ハ、永享四年、義教富士遊覽ノ際、妙興寺ヲ過ギリシニ、寺僧之ヲ榮トシテ
畫カシメタルモノナリ、原本ニハ僧周鳳ノ賛アリ、

北條早雲畫像

北條早雲ハ、初メ駿河ノ今川氏ニ寄り、後伊豆相模ヲ戡定シ、民治ニ意ヲ用ヒ、霸業
ヲ起ス、永正十六年八月伊豆韭山ニ卒ス、年八十八、

織田信長畫像

織田信長ハ、信秀ノ長子ナリ、尾張ヨリ起リテ京畿ヲ鎮定シ、天下統一ノ緒ヲ開キ、
從三位右大臣ニ敍任セラル、天正十年六月、其將明智光秀ノ爲メニ弑セラル、歲四十
九、從一位太政大臣ヲ贈ラレ、大正六年正一位ニ陞セラル、
此ノ畫像ハ、信長ノ近臣余語正勝ガ報恩ノ爲メニ描キテ長興寺ニ納メタルモノナリ、

前田利家畫像

前田利家ハ、金澤藩ノ祖ナリ、織田信長、豐臣秀吉ニ仕ヘ、從三位權大納言ニ進ム、

秀吉ノ薨後、遺命ニヨリ、徳川家康等ト共ニ秀頼ヲ輔佐ス、慶長四年閏三月薨ズ、從一位ヲ贈ラル、年六十二、

豊臣秀吉夫人北政所畫像

豊臣秀吉夫人北政所、名ハね、寧子又吉子トモ稱ス、杉原定利ノ女ナリ、秀吉ニ嫁シ、内助ノ功多シ、天正十三年從三位ニ叙セラレ、後從一位ニ進ム、慶長三年落飾シテ高臺院ト號シ、京都東山ニ隱栖シ、寛永元年九月薨ズ、年七十六、

林道春畫像

林道春、名ハ信勝、羅山ハ其號ナリ、薙髮シテ道春ト稱ス、博覽強記、學和漢ヲ兼ネ、編述百餘部ニ及ブ、徳川家康、秀忠、家光、家綱四代ノ將軍ニ歷仕シテ、法度ヲ制定シ、祭祀、外交等ノ事ニ與ル、明曆三年正月卒ス、年七十五、大正四年正四位ヲ贈ラル、

松平定信畫像

松平定信ハ、徳川宗武ノ子ナリ、白河城主松平氏ニ養ハレテ封ヲ襲グ、天明七年、老中ノ職ニ就キ、將軍家齊ヲ輔ケテ幕政ノ改革ヲ行フ、後退隱シテ樂翁ト號ス、性文學ヲ好ミ、編述スル所多シ、文政十二年五月卒ス、年七十二、明治四十一年正三位ヲ贈ラル、

此ノ畫像、原本ハ狩野養信ガ、定信自畫ノ肖像ニ據リテ畫ケルモノニカ、ル、平禮烏帽子ニ道服指貫ヲ著セルモノニシテ致仕後ノ正服ナリトイフ、

林子平畫像

林子平ハ、仙臺藩士ナリ、名ハ友直、六無齋ト號ス、經世ノ志ヲ懷キ、海内ヲ周遊シテ、海防ノ急務ヲ唱ヘ、海國兵談三國通覽等ヲ著ス、事幕府ノ忌諱ニ觸レテ、蟄居ノ罪ニ處セラル、寛政五年六月歿ス、年五十六、大正七年正四位ヲ贈ラル、

二宮尊德畫像

二宮尊德ハ、相模足柄上郡柏山村ノ農夫ナリ、通稱ヲ金次郎ト曰フ、開拓濟民ノ術ニ長ジ、幕府ノ命ニ依リテ、印旛沼ヲ開鑿ス、安政三年十月歿ス、年七十、世ニ報德先生ト稱ス、明治二十四年從四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、尊德六十七歳ノ時、門人岡田清忠ガ親シク寫生シ、青木南溟ガ之ニ彩色セルモノニ據リテ、更ニ葛岡年定ノ畫キタルモノナリ、

第三輯

後陽成天皇宸影

後陽成天皇ハ、第百六代ノ聖主ニマシマス、在位二十五年、元和三年八月崩御アラセラル、實算四十七、

聖德太子畫像

聖德太子ハ、又厩戸皇子ト曰ヒ、豐聰耳命ト稱ス、用明天皇ノ皇子ナリ、推古天皇ノ皇太子トシテ、萬機ヲ攝シ給ヒ、冠位ヲ定メ、憲法ヲ作り、佛教ヲ興隆セラル、又支那ニ使ヲ遣シテ、文物ヲ輸入シ、美術工藝ヲ興シ給フ、推古天皇三十年二月薨ズ、御年四十九、

源賴朝畫像

源賴朝ハ、鎌倉幕府ノ創立者ナリ、征夷大將軍ニ任ゼラレ、官權大納言右近衛大將ニ至ル、正治元年正月薨ズ、年五十二、

此ノ畫像ハ、山城神護寺ノ所藏ニシテ、藤原隆信ノ筆ナリト云フ、

源賴家畫像

源賴家ハ鎌倉幕府二代ノ將軍ナリ、元久元年七月伊豆修禪寺ニ薨ズ、年二十三、

此ノ畫像ハ、京都建仁寺ノ所藏ニ係ル、建仁寺ハ賴家ノ創建スル所ナレバ、蓋シ依據スルトコロアリシナラン、

足利義政畫像

足利義政ハ、義教ノ子ナリ、寶徳元年四月征夷大將軍ニ任ゼラレ、文明五年十二月職ヲ子義尚ニ讓ル、義政ノ職ニ在ルヤ、會々應仁文明ノ亂ニ際ス、義政之ヲ意トセズ、逸樂ニ耽リ、銀閣ヲ造リ、内外ノ名器ヲ集ム、延徳二年正月薨ズ、年五十六、

北條氏康畫像

北條氏康ハ、氏綱ノ子ナリ、父祖ノ遺業ヲ繼ギ、關東ヲ平定シテ、銳意民治ヲ謀ル、マタ風雅ノ志アリ、元龜二年十月卒ス、年五十六、

毛利元就畫像

毛利元就ハ、初メ安藝吉田ノ城主タリ、附近ヲ攻略シテ、遂ニ中國、九州ニ雄ヲ稱スルニ至ル、元龜二年六月卒ス、年七十五、明治四十一年正一位ヲ贈ラル、

德川家康畫像

德川家康ハ、初メ今川氏ノ保護ヲ受ケ、後織田氏ト結ブコト凡ソ二十餘年、豊臣秀吉ノ下ニ屈スルコトマタ凡ソ十五年、秀吉薨ジテ後、關ヶ原ノ大捷ニヨリテ、天下ノ實權ヲ握リ、慶長八年征夷大將軍ニ任ゼラル、元和二年四月薨ズ、年七十五、此ノ畫像ハ、天海ト對座セル圖ニシテ、狩野探幽ノ筆ニカ、ル、

春日局畫像

春日局、名ハ福^{フク}、齋藤利三ノ女ナリ、稻葉正成ニ嫁シ、德川家光ノ乳母トナル、保育甚ダ勤メ、内外ノ畏敬スル所トナル、家光ノ將軍繼嗣タルハ、局ノ盡力ニ依ル所多シト云フ、寛永六年上洛シテ、後水尾天皇ニ謁ス、春日局ノ號ハ此時賜フ所ナリ、寛永

二十年九月歿ス、年六十五、

此ノ畫像ハ、局ガ建立セル湯島麟祥院ノ所藏ニ係リ、狩野探幽ノ畫ク所ナリ、

保科正之畫像

保科正之ハ、將軍德川秀忠ノ子ニシテ、會津藩祖ナリ、慶安四年、將軍家光薨ズルヤ、其委托ヲ受ケテ四代將軍家綱ヲ輔佐シ、懿親ノ重キヲ以テ、ヨク閣老ヲ統理シ、以テ寛文ノ隆治ヲ致セリ、寛文十二年十二月卒ス、年六十二、

此ノ畫像、原本ハ正之ノ後裔子爵松平保男氏ノ所藏ニシテ、狩野探幽ノ筆ニ係ル、

本居宣長畫像

本居宣長ハ、伊勢松坂ノ人、醫ヲ以テ業トス、國學ヲ修メテ一家ヲ成シ、古事記傳以下國史國文ニ關スル著書數十部アリ、其學說創見多ク、ヨク國體ノ精華ヲ發揮ス、享和元年九月歿ス、年七十二、明治十六年正四位ヲ贈ラレ、後從三位ニ陞セラル、

此ノ畫像ハ、寛政二年六十一歳ノ時ノモノニシテ、原圖ニハ、上ニ「しきしまのやまと心を人とはい朝日に、ほふ山さくらばな」ノ自詠ヲ題セリ、

上杉治憲畫像

上杉治憲ハ、鷹山ト號ス、日向高鍋藩主秋月氏ノ出ニシテ、米澤藩主上杉氏ニ養ハル、恭儉ニシテ、心ヲ政務ニ盡シ、文教ヲ獎メ、風俗ヲ正シ、產業ヲ興ス、文政五年三月卒ス、年七十七、明治四十一年從三位ヲ贈ラル、

第四輯

後鳥羽天皇宸影

後鳥羽天皇ハ第八十二代ノ聖主ニマシマス、在位十五年、御讓位ノ後、土御門、順德、仲恭ノ三帝ノ御代廿三年ノ間院政ヲ視給フ、鎌倉幕府ノ專權ヲ憤リ、承久三年北條氏

追討ノ勅ヲ下シ給フ、事破レテ後、御出家アラセラレ、幕府ノ爲ニ隱岐ニ遷サレ、延應元年二月崩御アラセラル、寶算六十三、

此ノ宸影ハ、天皇ノ御影堂タリシ水無瀬宮ノ所藏ニシテ、藤原信實ノ筆ト傳ヘラル、隱岐遷幸ニ際シ、信實ヲ召シテ畫カセ給ヒシモノナリト云フ、

仁孝天皇宸影

仁孝天皇ハ、第一百十九代ノ聖主ニマシマス、在位三十年、弘化三年二月崩御アラセラル、寶算四十七、

空海畫像

僧空海ハ、讃岐ノ人ナリ、入唐シテ真言宗ヲ傳ヘ、歸朝後、東寺ニ入リテ真言宗ヲ弘通ス、晩年高野山ニ金剛峯寺ヲ創メ、承和二年三月寂ス、年六十二、延喜二年諡ヲ賜ヒテ弘法大師ト曰フ、空海尤モ書ヲ善クシ、我カ國入木道ノ祖ト稱セラル、

足利義持畫像

足利義持ハ、尊氏ヨリ四代ニシテ、嗣立ノ後、前代ノ弊政ヲ改メ、紀綱ヲ更張ス、尋デ職ヲ子義量ニ讓リテ薙髮ス、義量薨シテ後、マタ政ヲ聽キ、正長元年正月薨ズ、年四十三、

雪舟畫像

雪舟、名ハ等揚、備中ノ人ナリ、出家シテ京都相國寺ニ入リ、畫名夙ニ著ハル、應仁元年明ニ遊ビテ、更ニ研鑽ノ功ヲ積ミ、滞在三年ニシテ東歸ス、寂年詳ナラズ、此ノ畫像ハ、雪舟ノ畫流ヲ汲メル雲谷等益ノ筆ニ成レリ、

上杉謙信畫像

上杉謙信ハ、長尾爲景ノ子ナリ、初メ景虎ト云ヒ、後輝虎ト更ム、謙信ハ其法名ナリ、

越後ニ據リテ、四隣ヲ攻略ス、關東管領上杉憲政ノ家ヲ繼グ、彈正少弼ニ任ジ、從五位下ニ叙セラル、天正六年三月卒ス、年四十九、明治四十一年從二位ヲ贈ラル、此ノ畫像、原本ハ、天正六年二月、謙信親シク畫工ニ命ジテ、畫カシメ、高野山無量光院ニ納メシモノニ據リテ、摸寫セルモノナリ、

豐臣秀吉大政所(生母)畫像

大政所ハ、豐臣秀吉ノ生母ナリ、秀吉關白トナルニ及ビ、從一位ニ敍セラル、文祿元年七月薨ズ、年八十、准三后ヲ贈ラル、此ノ畫像、原本ハ、大政所ノ菩提寺ナル大德寺塔頭天瑞寺ノ舊藏ニ係リ、慶長二十年寶叔宗珍ノ贊アリ、

德川秀忠畫像

德川秀忠ハ、家康ノ第三子ナリ、慶長九年將軍ノ職ヲ嗣グ、元和九年職ヲ長子家光ニ

讓リテ、西ノ丸ニ老ス、寛永九年正月薨ズ、年五十四、此ノ畫像ハ、松平伯爵家(直之氏)ノ所藏ニ係リ、優悠迫ラザルトコロ、家康ノ容姿ヲ偲バシム、日光東照宮所藏ノ東照宮緣起、マタコノ風格アリ、

榊原康政畫像

榊原康政ハ、德川家康ニ仕ヘテ、武名アリ、井伊直政、本多忠勝ト併セテ德川三傑ト稱セラル、長久手、小牧、小田原、朝鮮、關ヶ原ノ諸戰ニ從事シ、屢々功アリ、小田原役後、上野館林城ニ封ゼラル、慶長十一年五月歿ス、年五十九、此ノ畫像ハ、榊原子爵家ノ所藏ニカ、ル、以テ武裝セル姿態ノ、凜然トシテ威儀堂々タルモノアルヲ見ルベシ、

中江藤樹畫像

中江藤樹ハ、近江ノ人、陽明學ヲ唱ヘ、郷里ニ藤樹書院ヲ興シ、専ラ薰育ヲ事トシテ、

顯榮ヲ冀ハズ、徳化四方ニ及ビ、世ニ近江聖人ト稱ス、慶安元年八月歿ス、年四十一、明治四十年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、享保十五年長崎ノ人小原慶山ノ筆ニ係ル、

伊能忠敬畫像

伊能忠敬ハ、下總佐原町ノ人ナリ、晩年曆學測量ノ術ヲ學ブ、寛政十二年、幕府ノ命ニヨリテ全國ノ測量ニ從事シ、海内ヲ巡測スルコト十八年、輿地圖ノ製作未ダ成ルニ及バズシテ、文政元年四月歿ス、年七十四、明治十六年正四位ヲ贈ラル、此ノ畫像、原圖ニハ、忠敬ノ郷友ニシテ、其業ヲ助ケシ久保本清淵ノ賛アリ、

藤田東湖畫像

藤田東湖ハ、水戸藩士ナリ、名ハ彪、通稱誠之進、尊王攘夷ノ說ヲ唱フ、安政二年ノ震災ニ遭ヒ、江戸ノ藩邸ニ歿ス、年五十、明治二十二年正四位ヲ贈ラル、

第五輯

孝明天皇宸影

孝明天皇ハ、第二百十代ノ聖主ニマシマス、幕末外交ノ事起ルニ及ビ、深ク軫念アラセラレ、屢勅ヲ降シテ、幕府ヲ戒飭シ給フ、慶應二年十二月崩御アラセラル、實算三十六、

最澄畫像

僧最澄ハ、近江ノ人ナリ、比叡山延暦寺ヲ創メ、入唐シテ天台宗ヲ傳ヘ、歸朝ノ後之ヲ首唱ス、又奏シテ大乘戒壇ヲ興ス、弘仁十三年六月寂ス、年五十六、貞觀八年勅シテ傳教大師ト諡ス、

德川家康生母傳通院夫人畫像

傳通院夫人、名ハ太、水野忠政ノ女ナリ、德川廣忠ニ配シテ家康ヲ生ム、後故アリテ久松俊勝ニ嫁シ、慶長七年八月歿ス、年七十五、此ノ畫像ハ、夫人ノ生家水野子爵家(直氏)ノ藏スル所ナリ、

加藤清正畫像

加藤清正ハ、豐臣秀吉ニ仕ヘ、賤ヶ嶽ノ役ニ所謂七本鎗ノ一人タリ、後肥後半國ヲ賜ハリ、熊本城ニ治ス、文祿慶長ノ朝鮮役ニハ、先鋒トナリ、遠ク北地ニ入り、武名ヲ海外ニ耀ス、關ヶ原役後、肥後一國ニ封ゼラル、慶長十六年六月卒ス、年五十、

德川家光畫像

德川家光ハ、秀忠ノ長子ニシテ、德川氏三代ノ將軍ナリ、資性剛邁ニシテ、能ク諸大

名ヲ威服シ、諸制度ヲ完備シテ、幕府ノ基礎ヲ固ム、慶安四年四月薨ズ、年四十八、

德川齊昭畫像

德川齊昭ハ、水戸藩主ナリ、藩政ヲ改革スルトコロ多シ、幕末外交ノ事起ルニ及ビテ、大ニ尊王攘夷ノ說ヲ唱ヘ、士氣ヲ鼓舞ス、萬延元年八月薨ズ、年六十一、明治三十六年正一位ヲ贈ラル、

賴山陽畫像

賴山陽、名ハ襄、廣島藩ノ儒者春水ノ子ナリ、詩文ヲ巧ニシ、殊ニ史論ニ長ズ、ソノ著日本外史、日本政記等ハ最モ世ニ行ハレ、士氣ノ鼓舞ニカアリ、天保三年九月京都ニ歿ス、年五十三、明治二十四年正四位ヲ贈ラル、此ノ畫像ハ、山陽病革ルニ及ビ、門人ヲシテ畫カシメタルモノニカ、ル、原圖ニハ、篠崎小竹ノ代筆セル自贊二首アリ、

渡邊華山畫像

渡邊華山ハ、參河田原藩士ナリ、資性至孝、畫ニ巧ニシテ一家ヲ成ス、後專ラ意ヲ海防ニ傾ケ、書ヲ著シテ幕府ヲ諷ス、事忌諱ニ觸レテ、幽閉セラレ、天保十二年十月屠腹シテ死ス、年四十九、明治二十四年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像、原本ハ華山會ノ保管スル所ニシテ、門人椿椿山ノ筆ニ係ル、

蒙古襲來ノ圖

此ノ圖ハ、蒙古襲來ノ際、從軍ノ武士肥後ノ人竹崎季長ガ畫カシメタル繪卷ノ一部ニシテ、文永十一年ノ役、季長ノ姉婿三井三郎資長ガ敵將ヲ射ルトコロナリ、

寺小屋ノ圖

寺小屋ハ、徳川時代、寺院其ノ他民間ニ於ケル普通教育ノ私塾ナリ、其教師ハ、士庶僧祝

等之ニ當ル、學科ハ習字ヲ主トシ、讀書、算術、及ビ裁縫、茶湯、生花等ヲモ授ケタリ、此ノ圖ハ、士分ノ師匠ガ、居宅ニ於テ教授セル所ヲ畫ケルモノナリ、

第六輯

桓武天皇宸影

桓武天皇ハ、第五十代ノ聖主ニマシマス、都ヲ平安ニ遷シ、千餘年間不易ノ帝都ヲ奠メ、マタ蝦夷ヲ伐チテ之ヲ服シ、皇化ヲ遠キニ及ボシ給フ、在位二十五年、延暦二十五年三月崩御アラセラル、實算七十、此ノ宸影ハ、相傳ヘテ巨勢廣貴ノ筆ト云フ、今平安神宮ニ奉祀セラル、宸影モ略之ニ同ジ、

源空畫像

僧源空ハ、法然房ト號ス、淨土宗ノ開祖ナリ、美作稻岡ノ人、比叡山ニ登リテ、天台宗ヲ學ビ、後黒谷吉水ニ幽棲シテ、專修念佛ヲ唱導ス、建暦二年正月寂ス、年八十、

此ノ畫像、原圖ハ、全身ノ像ニシテ、頂背ニ圓光ヲ帶ビ、脚下ニ一双ノ青蓮華アリ、

足利義晴畫像

足利義晴ハ、尊氏ヨリ十二代ニシテ、大永元年ニ、征夷大將軍ニ任ジ、權大納言從三位ニ至ル、天文十九年五月薨ズ、年四十、左大臣從一位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、義晴薨去ノ前日ニ、畫工土佐刑部少輔光茂ヲ召シテ、畫カシメタルモノナリト云フ、

小早川隆景畫像

小早川隆景ハ、毛利元就ノ第三子ナリ、出デ、小早川氏ヲ嗣グ、從三位權中納言トナ

ル、智謀深遠、思慮周密ヲ以テ稱セラル、慶長二年六月薨ズ、年六十五、明治四十一年正三位ヲ贈ラル、

其ノ畫像ハ、京都大德寺塔頭黃梅院、及ビ安藝豐田郡ノ佛通寺、同郡米山寺等ニ傳ハレリ、大抵相似タリト雖モ、米山寺ノ分ハ、殊ニ善ク溫藉ノ風貌ヲ見ハセルヲ以テ今之ヲ探ル、

福島正則畫像

福島正則ハ、尾張海東郡ノ人ナリ、豐臣秀吉ニ仕ヘ、賤ヶ嶽ノ役ニ所謂七本槍ノ高名ヲ博シ、九州小田原朝鮮等ノ諸戰役ニ從ヒ、屢軍功アリ、後安藝ノ廣島城ニ居ル、元和五年信濃ニ配流セラレ、寛永元年七月卒ス、年六十四、

此ノ畫像、口髭ノ左右ニ磔張スルト、耳邊ヨリ頬上ヘカケ、鬚毛ノ毳々然タルトハ、正則ノミナラズ、當時ノ武人ニ往々見ル所ニシテ、威武ヲ尙ブノ風ヲ見ルベシ、

狩野探幽畫像

狩野探幽、名ハ守信、狩野派中興ノ祖ナリ、幼ヨリ畫ヲ好ミ、後宋元大家ノ筆意ヲ慕ヒ、可翁雪舟ノ畫風ヲ學ビ、遂ニ能ク一機軸ヲ出ス、幕府ノ繪所トナリ、法眼ニ敍セラレ、法印ニ進ム、延寶二年十月歿ス、年七十三、此ノ畫像ハ、探幽ノ高弟桃田柳榮ノ繪ク所ニカ、ル、

平田篤胤畫像

平田篤胤ハ、羽後秋田ノ人ナリ、本居宣長ノ學風ヲ慕ヒ、國典ヲ研究シテ、敬神愛國ノ說ヲ主張シ、古史傳以下著書多シ、天保十四年閏九月歿ス、年六十八、明治十六年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、篤胤嘗テ畫工ニ命ジテ、其容ヲ寫サシメタルモノニシテ、原圖ニハ、雲となりあるは雨とも降りしきて神世の道に身をや盡さむ」ノ自題アリ、原本今佚シ、複本

數種互ニ小異アリ、本圖ハ、平田盛胤氏藏スル所ニ據リ、他ノ複本ヲ以テ之ヲ參酌ス、

塙保己一畫像

塙保己一ハ、武藏兒玉郡保木野村ノ人ナリ、幼ニシテ明ヲ失ス、初メ音曲鍼術ヲ學ビシガ、後ニ國史國文ヲ研究シ、聲名漸ク高ク、勾當ニ任ゼラレ、檢校ニ進ム、幕府ニ請ウテ和學講談所ヲ開キ、又宇多天皇以來ノ史料四百五十卷ヲ編纂シ、群書類從六百六十五冊、續群書類從千百八十五冊等ヲ纂輯ス、文政四年九月歿ス、年七十六、明治四十四年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、保己一歿後一周忌ニ當リ、其長女ノ依囑ニヨリテ、住吉内記廣定ノ畫ク所ナリ、其服裝ハ、盲人ノ總管タル檢校ノ正服ニシテ、緋ノ衣ニ、白綸子ノ小袖、袴ナリ、頭巾ハ燕尾ト稱スルモノニシテ、右手ニ持テルハ中啓ナリ、

後三年合戰ノ圖

後三年合戰繪卷ハ、源義家ト清原武衡家衡トノ合戰ヲ畫キタルモノナリ、後村上天皇正平二年ニ、延曆寺ノ僧徒ガ、兒童ノ教學ニ便センガ爲メニ畫カセタルモノニテ、畫工ハ飛驒守惟久ナリ、

此ノ圖ハ、義家ガ出羽金澤柵ヲ攻ムルニ當リ、飛雁行ヲ亂スヲ見テ、敵ノ伏兵アルヲ覺リ、撃チテ之ヲ壓ニセシ有様ヲ示セリ、

聖堂講釋ノ圖

聖堂ハ、孔子ヲ祀レル先聖堂ノ略稱ニシテ、其廟學タル學問所ヲモ包含ス、初ハ林家ノ私有ニシテ、江戸上野ノ忍岡ニ在リシガ、元祿年間、之ヲ湯島ニ移ス、今ノ東京教育博物館、竝ニ東京女子高等師範學校ノ地是ナリ、寛政九年、幕府ノ官學トナシ、其制大ニ備レリ、明治維新ノ後廢セラル、聖堂ノ講釋ハ、座敷稽古所、及ビ仰高門日講所等ニ行ハル、所謂御座敷講釋ハ、毎月四七九ノ日ニ開キ、講師ハ幕府ノ儒員ニシテ、聽講者ハ萬石以上ノ者並ニ幕臣ニ限ラル、稽古所講釋ハ二六ノ日ニ開キ、儒員出

講シテ、寄宿生及ビ通學生等聽講ス、日講所講釋ハ日々アリ、教授方出役等之ニ當リ、四民共ニ來聽ス、

此ノ圖ハ、明治ノ初年ニ畫キタルモノナリ、多少想像ヲ加ヘタル所有ルガ如シト雖モ、蓋シ幕末ニ於ケル學問所御座敷講釋ノ様ヲ示シタルモノナリ、

第七輯

醍醐天皇宸影

醍醐天皇ハ第六十代ノ聖主ニマシマス、在位三十二年、延長八年崩御アラセラル、寶算四十六、天皇勵精治ヲ圖リ、仁政ヲ行ヒ給フ、世ニ延喜ノ治ト稱ス、

此ノ宸影、モトハ延曆寺ノ所藏ナリシガ、今ハ醍醐寺三寶院ニアリ、蓋シ醍醐寺ハ、天皇ノ勅願寺ナルノ故ヲ以テ、移藏セラレシモノナラン、

後桃園天皇宸影

後桃園天皇ハ、第百十七代ノ聖主ニマシマス、在位十年、安永八年十一月崩御アラセラル、寶算二十二、

榮西畫像

榮西ハ葉上房ト稱ス、備中吉備津ノ人ニシテ、俗姓ハ賀陽氏ナリ、初メ天台宗ノ僧トナリ、顯密二教ヲ學ビ、後宋ニ游ビテ禪宗ヲ傳來ス、臨濟宗建仁寺派ノ開祖タリ、建保三年七月寂ス、年七十五、

此ノ畫像、原圖ニハ絶海中津ノ筆ニカ、レル子元祖元ノ讚アリ、曰ク、法中之英、僧中之傑、一錫浮滄溟、南詢還北謁、歸來三處開山、法雨雷施電掣、形留千載花上之春、道播兩國水中之月ト、中津ハ、榮西ヨリ百數十年後ノ人ナレバ、此ノ像ハ當時ノモノニアラズト雖モ、其頭顱ノ長大ニシテ、扁平ナル特徴ヲ示セル等、其依據スルトコロ

アルヲ知ル、

北條氏綱畫像

北條氏綱ハ早雲ノ子ナリ、早雲歿後、其遺業ヲ繼ギ、兩上杉氏ヲ川越ニ撃チ、里見氏ヲ國府臺ニ破リテ、覇ヲ關東ニ稱ス、天文十年七月卒シ、箱根早雲寺ニ葬ル、年五十五、

此ノ畫像ハ、早雲寺ニ傳ヘタルモノニシテ、狀貌ノ魁偉ナルハ、以テ其人ヲ想見スベシ、

伊達政宗畫像

伊達政宗ハ、仙臺ノ藩祖ナリ、武略ニ長ジ、マタ文事ニモ暗カラズ、ソノ武威夙ニ奥羽ヲ壓シタリシガ、後豐臣德川二氏ニ歷事シテ優遇セラレ、累進シテ從三位權中納言ニ至リ、寛永十三年五月薨ズ、年七十、明治三十四年正三位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、モト伊達家ノ建立ト傳ヘラル、京都東福寺塔頭松月庵ノ所藏ナリシガ、維新後、隣寺靈源院ノ有ニ歸ス、此ノ像ハ、陸前瑞嚴寺安置ノ甲冑ヲ着用セル木像ト共ニ、善ク獨眼ノ眞ヲ傳フルモノナリ、

淺野長政畫像

淺野長政ハ、尾張ノ人ナリ、夙ニ豐臣秀吉ニ屬シ、深ク其信賴スル所トナル、尤モ吏務ニ長ジ、五奉行ノ首班タリ、慶長十六年四月卒ス、年六十五、明治四十三年從三位ヲ贈ラル、

貝原益軒畫像

貝原益軒、名ハ篤信、通稱久兵衛、又損軒ト號ス、筑前ノ碩儒ナリ、著書百餘種、多クハ國字ヲ以テシ、世ヲ益スルヲ主トス、正徳四年八月歿ス、年八十五、明治四十四年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、狩野昌運ノ筆ニカ、リ、五タビ稿ヲ改メテ成レルモノ、實ニ六十五歳ノ壽像タリ、原圖ニハ、益軒自ラ賛シテ、樸陋之質、衰朽之軀、引鏡窺影、彷彿畫圖、玩古不倦、至老增娛、千慮有得、斯語庶乎ト題セリ、

賀茂眞淵畫像

賀茂眞淵ハ、遠江ノ人ナリ、國學ヲ以テ著ハレ、深ク萬葉集ヲ究メ、詠歌文章等ヨク古調ヲ寫シ、自カラ一家ヲ成ス、萬葉考以下ノ著書甚ダ多シ、明和六年十月歿ス、年七十三、明治十六年正四位ヲ贈ラレ、同三十八年更ニ從三位ヲ贈ラル、此ノ畫像、原圖ニハ、門人狛諸成ノ題辭アリ、眞淵ノ養子定雄ノ藏セルモノニ據リテ模寫セル由ヲ記セリ、

平治物語繪卷院御所夜討ノ圖

平治物語繪卷ハ、平治ノ亂ノ顛末ヲ畫キタルモノナリ、此ノ圖ハ、平治元年、藤原信

頼、源義朝等ガ、院御所三條殿ヲ夜討セル狀況ニ係ル、此ノ繪卷、現存セルモノ三卷アリ、傳ニ住吉法眼慶恩筆ト云フ、此ノ卷ノ原本ハ、今北米合衆國ボストン美術館ニアリ、

米國使節「ペリー」響應ノ圖

此ノ圖ハ、横濱村ニ新設セル應接場ニ於テ、幕府ノ吏員ガ、米國使節ト面接セシ時、茶菓響應ノ狀況ヲ畫ケルモノニシテ、蓋シ安政元年二月十日、初メテ對面セシ時ノモノナラン、爾後談判數次、三月三日ニ至リテ、遂ニ和親條約ヲ締結セリ、圖中、我が吏員ノ席次ハ、各人ノ羽織ノ紋章ニ據ルニ、幕内ノ最右端ニ米人ト對坐セルハ、儒役林大學頭輝、次ハ町奉行井戸對馬守覺弘、次ハ浦賀奉行伊澤美作守政義、次ハ目付鶴殿民部少輔長銳、次ハ幕府儒者松崎滿太郎純儉ニシテ、幕内ノ最左端ニ我が吏員ト對坐セルハ、即チ「ペリー」ナラン、

第八輯

花園天皇宸影

花園天皇ハ、第九十五代ノ聖主ニマシマス、在位十一年、正平三年（貞和四年）十一月崩御アラセラル、實算五十三、天皇、和漢ノ學ニ精通シ、殊ニ佛法ノ奧秘ヲ極メ給フ、

此ノ宸影ハ、寺傳ニ、鏡ノ御影ト稱セリ、後花園天皇、嘗テコノ御影ヲ宮中ニ迎ヘ拜セラレ、宸翰ヲ染メテ、傳如來正法、坐玉鳳禪宮、稽首花園帝、萬年護日東ノ御製ヲ題シ給フ、天毫燦然トシテ、今猶ホ新ナルガ如シ、

足利義輝畫像

足利義輝ハ、尊氏ヨリ十三代ニシテ、天文十五年征夷大將軍ニ任ズ、永祿八年五月、

松永久秀等ノ爲ニ弑セラル、時二年三十、左大臣從一位ヲ贈ラル、此ノ畫像ハ、石見益田ノ領主益田藤兼ガ、義輝ヲ欽仰シ、朝夕瞻拜ノ爲メニ畫カシメタルモノニシテ、原圖ニハ、永祿五年東福寺竺雲ノ贊アリ、威容端莊、其勇邁ナルヲ想見スベシ、

長曾我部元親畫像

長曾我部元親ハ、土佐ノ一隅ニ起リテ、四國ヲ征服ス、天正十三年 豐臣秀吉ニ降リ、土佐一國ヲ領シ、其後、九州、小田原、朝鮮等ノ戰役ニ功アリ、尤モ艦戰ヲ以テ著ル、從四位下土佐守ニ叙任セラル、慶長四年五月卒ス、年六十一、此ノ畫像ハ、元親卒去ノ際、其子盛親ガ、畫工ニ命ジテ寫サシメタルモノニシテ、原圖ニハ、南禪寺惟杏ノ贊アリ、中ニ、愛君愛國智過人、武勇名高率士濱ノ句アリ、善ク其人ヲ頌セリト云フベシ、

澤菴畫像

澤菴、名ハ宗彭、但馬ノ人ナリ、山城大德寺ニ入り、臨濟ノ宗風ヲ傳フ、公卿將士多ク之ニ歸依ス、後徳川家光ノ眷遇ヲ得テ、武藏品川ニ東海寺ヲ開創ス、正保二年十二月、夢ノ一字ヲ大書シテ寂ス、壽七十三、

此ノ畫像ハ、寛永十六年、宗彭ノ弟子宗印ガ、畫工ニ命ジテ寫サシメタルモノニシテ、原圖ニハ、宗彭ノ贊アリ、其着スル所ノ衣ハ所謂紫衣ナリ、

伊藤仁齋畫像

伊藤仁齋、名ハ維楨、通稱ハ源佐、仁齋ハ其號ナリ、寛永四年京都堀川ニ生ル、夙ニ心ヲ程朱ノ學ニ潛ム、後其說ヲ疑ヒテ、沈吟年ヲ閲シ、大ニ得ル所アリ、遂ニ古學ヲ倡導ス、是ヨリ門戸ヲ開イテ、生徒ニ教授スルコト四十餘年、溫順寛厚ノ資ヲ以テ、善ク諸生ヲ導ク、四方ノ學徒其門ニ滿ツ、謁ヲ求ムルモノ凡三千餘人、所謂堀川派ノ

名聲天下ヲ壓ス、寶永二年三月歿ス、年七十九、明治四十年正四位ヲ贈ラル、

吉田松陰畫像

吉田松陰、名ハ矩方、通稱寅次郎、松陰ハ其號ニシテ萩藩士ナリ、少時ヨリ門戸ヲ開キテ後進ヲ誘掖シ、夙ニ時勢ヲ遠觀シテ、心ヲ海外ニ用ヒ、米艦ニ投ゼントシテ成ラズ、マタ勤王ノ志篤ク、尊攘ノ大義ヲ唱ヘ、志士ト事ヲ舉ゲントシ、幕府ノ忌ムトコロトナリテ、安政六年十月斬ニ處セラル、時ニ年三十、明治廿二年正四位ヲ贈ラル、此ノ畫像ハ、安政五年、松陰藩地ヨリ江戸ニ檻致セラル、ニ際シ、門人松浦松洞ノ畫キタルモノニ自ラ賛ヲ加ヘタル八幅ノ一ナリ、

末吉船ノ圖

此ノ圖ハ、大坂ノ商人末吉孫左衛門ガ、南洋貿易ニ從事セルトキ、航海安全ノ祈願報賽ノ爲メ、其船ヲ畫キテ、京都清水寺ニ奉納セル扁額三面ノ一ナリ、孫左衛門ハ、名

ヲ吉康トイヒ、勘兵衛利高ノ子ナリ、勘兵衛ハ、徳川家康ニ仕ヘ、舟航及銀座ノ事ヲ掌リ、孫左衛門ハ大坂ニ住シ、盛ニ南洋貿易ニ從ヒ、慶長元和寛永ノ頃、屢呂宋東京等ニ渡航セリ、圖中、御朱印船ノ構造等ヲ知ルベキノミナラズ、三味線、骨牌、雙六、煙草盆、煙管等、當時ノ風俗ヲ見ルベキモノ少カラズ、南洋土人ノ勞役ニ服セルガ如キ、マタ注意スベシ、文字ノ中ニ、宿坊執行トアルハ、清水寺ノ執行即寺務所ヲ以テ、取次トスルノ意ナリ、

「ペリー」横濱上陸ノ圖

此ノ圖ハ、米利堅人應接之圖ト題セル卷物ノ一部分ニシテ、安政元年二月十日米國水師提督「ペリー」ガ、我應接吏林大學頭輝等ニ面接センガ爲メニ、初メテ横濱村ニ上陸セシ狀況ヲ畫ケルモノナリ、當時横濱村ハ、一小漁村ニシテ、現今般賑ナル市街ハ、概ネ田畝溝渠ノ地ナリシガ、此處ニ假小屋ヲ建テ、臨時ノ應接場トシ、小倉松代二藩士ハ陸上ヲ鳥取藩士ハ海上ヲ警衛セリ、「ペリー」ハ、幕僚士卒等五百餘人ヲ率キ、短

艇二十八隻ニ乗リテ上陸シ、其際短艇ニ備ヘタル大砲ニテ、將軍及ビ大學頭ニ對シテ祝砲ヲ放タシメタリ、時ニ我士卒ノ訓練完カラズ、又銃槍各々隊ヲ異ニセル制度ナリシカバ、彼ノ隊伍ノ秩序整然トシテ、進退節度アルト、銃槍ヲ兼ネタル劔付鐵炮トヲ見テ、皆大ニ感歎セリト云フ、

明治天皇御即位式ノ圖

此ノ圖ハ、慶應四年八月二十七日（九月八日明治ト改元ス）、京都御所ナル紫宸殿ニ於テ行ハセラレタル明治天皇ノ御即位式ヲ畫キタルモノニシテ、外辨上席ノ者壽詞ヲ奏スルトコロナリ、

此ノ御即位式ハ、上古ノ禮典ニ基キ、從前ノ儀節ヲ參酌シテ新ニ制定セラレタルモノナリ、從前ハ、唐風ノ旗ヲ立テタリシヲ、日本風ノ旗ニ改メテ、大幣旗日月幣旗等ヲ造ラレ、參列ノ諸員ノ中ニハ、唐制ノ禮服ヲ着シタルモノモアリシガ、之ヲ改メテ束帶衣冠等ヲ用ヒシメラレタリ、而シテ庭上ノ中央ニ大地球儀ヲ置カレタルガ如キハ、

尤モ新儀ニ屬スルモノナリ、

第九輯

龜山天皇宸影

龜山天皇ハ第九十代ノ聖主ニマシマス、在位十五年、嘉元三年九月崩御アラセラル、實算五十七、

此ノ宸影ハ、天皇ノ勅願ナル南禪寺ノ所藏ニ係リ、同寺ノ開祖大明國師普門及ビ二代南院國師圓祖ノ畫像ト三幅對ノ一ニシテ、竝ニ探幽ノ畫キタルモノナリ、之ヲ同寺開山堂ニ奉安セル天皇ノ御木像ト對比スルニ、御頂相ノ特徴等酷ダ相肖タリ、以テ其依據スルトコロアルヲ知ルベシ、

大内義隆畫像

大内義隆ハ、防長豊筑藝備石七州ノ守護トシテ雄ヲ鎮西ニ稱ス、當ニ心ヲ王室ニ傾ケ巨資ヲ獻ジテ後奈良天皇御即位ノ儀ヲ助ケ奉リ、京搢ヲ招聘シ、支那朝鮮ニ通商シ以テ中國ノ文化ヲ開發ス、後正二位太宰大貳ニ叙任セラル、天文二十年九月陶隆房ノ爲ニ弑セラル、年四十五、

此ノ畫像ハ、天文十三年ニ畫カシメタル壽容ニシテ、原圖ニハ、大德寺玉堂ノ賛アリ、

片桐且元畫像

片桐且元ハ、初助作、後市正ト稱ス、豊臣秀吉ニ仕ヘ、賤ヶ嶽ノ役ニ所謂七本槍ノ一人タリ、秀吉薨後、秀頼ヲ輔佐ス、慶長十九年大佛鐘銘事件ノ起ルヤ、且元東西ニ奔走シ、周旋甚ダ力メシモ、其苦衷ノ策ハ容レラレズシテ、終ニ大坂城ヲ去ル、コレヨリ東西ノ軍起リテ、大坂城終ニ陥リ、秀頼自殺ス、且元憂苦病ヲ發シテ卒ス、年六十三、時ニ元和元年五月ナリ、

此ノ畫像ハ、且元ヲ葬レル大德寺中玉林院ノ所藏ニシテ、原圖ニハ月岑宗印ノ賛アリ、

宗印ハ大德寺ニ住シ、元和八年ニ寂セシ人ナレバ、以テ此ノ畫像ノ當時ノモノタルヲ知ルベシ、

山田長政畫像

山田長政ハ、通稱仁左衛門、駿河ノ人ナリ、少ニシテ雄志アリ、海外ニ航セント欲シ、商船ニ搭ジテ臺灣ニ至リ、遂ニ暹羅ニ渡リ、國王ノ爲メニ四隣ヲ征服シ、國事ヲ攝行ス、後内亂アリテ害ニ遭フ、時ニ寛永十年ナリ、大正四年從四位ヲ贈ラル、長政常ニ郷國ヲ慕ヒ、暹羅戰艦ノ狀、及ビ自己ノ像ヲ畫キテ、之ヲ駿河淺間社ニ奉納ス、コノ畫像ハ即チ是ナリ、風貌魁梧、服裝奇偉ナルハ、以テ圖南ノ壯舉ヲ想見スルニ足レリ、

荻生徂徠畫像

荻生徂徠、名ハ雙松、字ハ茂卿、通稱總右衛門、徂徠ハ其號ナリ、又護園ト號ス、本姓物部氏ナルニヨリ物徂徠トシテ知ラル、古文辭ノ學ヲ倡ヘテ一世ヲ風靡シ、天下爭

ヒテ其門ニ趨ル、其學浩博ニシテ、兵刑音律書技ニ至ルマデ兼綜セザルハナシ、享保十三年正月歿ス、年六十三、

佐久間象山畫像

佐久間象山、名ハ啓、又大星、字ハ子明、通稱ハ修理、松代藩ニ仕フ、初メ漢學ヲ佐藤一齋ニ學ビ、後江川太郎左衛門、下曾根金三郎ニ從ヒテ、砲術ヲ受ケ、又門人黒川良庵ニ就キテ、蘭學ヲ修メ、遂ニ西洋兵學ノ一家ヲ成シテ、諸生ヲ教授ス、象山識見卓犖、夙ニ開國ヲ倡ヘ、竊ニ畫策スル所アリシガ、元治元年七月、攘夷論者ノ爲メニ殺害セラル、時ニ年五十四、明治二十二年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、象山ノ親族故舊ガ、畫工ニ指授シテ畫カシメタルモノヲ原本トシ、象山ガ自ラ工夫シテ撮影セシメタル寫眞ニ參照シ、又象山ニ緣故アル人士ノ注意ヲ受ケ、之ヲ修正セルモノナリ、

鎌倉時代風俗ノ圖

此ノ圖ハ、淨土宗ノ開祖源空ノ傳ヲ畫キタル法然上人行狀畫圖ノ中ヨリ採リタリ、承元元年、源空ガ專修念佛ノ事ニ依リ、罪ヲ獲テ配所土佐ニ赴ク途次、攝津經ヶ島ニ於テ布教スル狀況ニ係ル、屋舍船舶、及ビ僧俗男女老少ノ服裝等、當時ニ於ケル風俗ノ一般ヲ徴スベシ、

此ノ繪卷ハ、鎌倉時代ノ末期、土佐吉光等數人ノ畫キタルモノナリト云フ、

大坂夏陣ノ圖

慶長十九年、大坂關東ノ平和破レテ冬陣トナリ、一タビ和ヲ講ゼシガ、忽チニシテ復破レ、翌元和元年ノ夏陣トナル、五月、徳川家康父子大坂ニ向ヒ、六日國分道明寺及ビ、八尾若江ノ戰、七日天王寺岡山ノ戰ニ於テ、大坂方全ク敗レ、八日城陷リ、豊臣秀頼等自殺ス、本圖ハ、落城前ニ於ケル、城門ノ内外ノ狀況ヲ畫ケルモノニシテ、甲

冑ヲ着ケザル者ノ多キコト、槍鐵砲ノ盛ニ用ヒラル、コト等、當時戰爭ノ狀況ヲ徴スベキモノ頗多シ、

此ノ原圖ハ、役後、家康ヨリ、江戸城留守居タル最上家親ニ贈レルモノナリト傳フ、後山形興禪寺ニ傳ハリシガ、明治二十七年同市大火ノ際、烏有ニ歸セリ、今ソノ摸寫數種ヲ校合シテ、本圖ヲ作ル、ソノ中衣服鎧等ノ色彩ハ、摸寫畫工ノ意ニ任セタルモノ多シト見エ、各本ノ差異甚シキモノアルヲ以テ、多クハ之ヲ省略セリ、

大名行列ノ圖

此ノ圖ハ、弘化四年九月廿三日孝明天皇御即位ノ禮ヲ行ハセラル、ニ當リ、松江ノ城主松平出羽守齊貴^{ナリタカ}、將軍德川家慶ヨリノ奉賀使トシテ、上京セル時ノ行列ノ繪卷中ヨリ、進獻ノ長持^{（上段）}及ビ齊貴ノ駕籠脇^{（下段）}ノ兩部分ヲ畫キ出セルモノナリ、上段、御用ノ札アルハ、進獻物ヲ納メタル長持、騎馬ハ中乗ヲ命ゼラレタル使番役ニシテ、下段、前ナル駕籠ハ齊貴坐乗ノモノ、後ナルハ乗替ノ山駕籠ナリ、筆者ハ同藩

ノ畫師陶山雅純^{（號ハ勝）}トス、當時大名ノ行列ハ、家格石高等ニヨリテ、人馬器具等ニ差異アリシガ、コレハ、將軍ノ名代トシテノ行列ナレバ、家格以上ノ鹵簿ヲ具ヘ、上下ノ總人數實ニ千七百六十人ノ多キニ達セリ、

第十輯

桃園天皇宸影

桃園天皇ハ、第百十五代ノ聖主ニマシマス、天皇英明ニシテ、和漢ノ典籍ヲ治メ、有志ノ公卿ヲ延キ、竹内式部流ノ學說ヲ聞召シ竊ニ皇權ノ恢復ヲ圖リ給フ、在位十六年、寶曆十二年崩御アラセラル、寶算二十二、

北條實時畫像

北條實時ハ、義時ノ孫、實泰ノ子ナリ、學ヲ好ミ書ヲ愛シ、文庫ヲ武藏金澤ノ別業ニ

建テ、金澤文庫ト稱シ、廣ク和漢ノ典籍ヲ收貯ス、ソノ子顯時、孫貞顯三世相承ケテ益書ヲ貯ヘ、關東ノ文學ニ資スルトコロ多シ、建治二年十月卒ス、年五十三、大正四年正五位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、金澤稱名寺ニ傳フルトコロニシテ、容姿ノ閑雅ニシテ、眉目ノ端麗ナルハ、以テ其文學ニ逍遙スルノ風ヲ想見スベシ、

淺井長政畫像

淺井長政ハ、久政ノ子ニシテ、備前守ト稱ス、父祖以來近江ノ北半ヲ領有ス、朝倉氏ト連盟シテ、織田信長ニ抗シ、大ニ姊川ニ戰ヒテ敗レ、天正元年八月、信長ノ爲ニ滅サル、歲二十九、

此ノ畫像ハ、長政十七回忌ノ時畫キタルモノニシテ、長政ノ女^澁ヨリ高野山持明院ニ寄附セルモノナリト云フ、原圖ニハ、前南禪寺住持鍊甫宗純ノ贊アリ、長政禪ヲ修メ和歌ヲ嗜ム、此ノ容貌、雄壯ノ中ニ溫雅ノ風ヲ存セルハ善ク其人ヲ躍出セリト云フベシ、

織田信忠畫像

織田信忠ハ、信長ノ嫡子ナリ、幼時ハ奇妙、マタ三法師ト稱ス、父ニ從ヒテ、東討西伐屢偉勳ヲ樹ツ、殊ニ松永久秀ヲ誅シ、武田勝頼ヲ滅セルガ如キハ、其功多キニ居ル、後從三位左近衛中將ニ叙任セラル、天正十年六月、明智光秀ノ爲ニ弑セラル、年二十六、後右大臣ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、大雲院ノ所藏ニ係ル、大雲院ハ信忠父子ノ爲ニ建立セシモノナリ、ソノ容貌ノ端壯ニシテ、眉目ノ秀麗ナルハ、頗ル信長ト相似タリ、

天海畫像

天海ハ、南光坊ト稱ス、天台宗中興ノ祖ナリ、宏才博學ニシテ、辯論ニ長ズ、徳川家康、秀忠、家光三代ノ尊信ヲ受ケ、大僧正トナル、日光山東照宮ヲ創メ、川越喜多院等ヲ

再興ス、又上野寛永寺ヲ開キテ東叡山ト稱シ、皇子ヲ招請シテ後嗣ニ擬シ、以テ比叡山ニ對ス、寛永二十年十月寂ス、年百八、慶安元年慈眼大師ノ號ヲ追諡セラル、此ノ畫像ハ、狩野探幽ノ筆ナリト傳フ、原圖ニハ天海ノ自賛歌アリ、曰ク、愚なる心をとめぬうつし繪のかりのすかたはさもあらはわれ、

池田光政畫像

池田光政ハ、輝政ノ孫ニシテ、利隆ノ子ナリ、新太郎ト稱ス、父ニ嗣ギテ播磨ヲ領シ、後鳥羽ニ移リ、再ビ岡山ニ轉封セラル、幼ヨリ學ヲ好ミ、殊ニ中江藤樹ヲ尊崇シテ、參觀交替ノ途次、ソノ講義ヲ聽クヲ常トス、其門人熊澤了介(山)ヲ登用シテ、國政ニ與ラシメ、後又津田佐源太(永忠)ヲ信任ス、光政勵精治ヲ圖リ、學校ヲ設ケテ教化ヲ施シ、勤儉貯蓄ヲ獎メ、善行ヲ賞シ、新田ヲ開發シ、國產ヲ増シ、社倉ノ法ヲ行ヒテ、凶年ニ備フ、藩内教化ヨク行ハレテ、治績大ニ舉ル、世ニ新太郎少將ト稱シテ、明君ノ譽高シ、寛文十二年致仕シ、天和二年五月卒ス、年七十四、明治四十三年正三位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、延享四年孫繼政ノ畫ケルモノナリ、

山崎闇齋畫像

山崎闇齋、名ハ嘉、字ハ敬義、通稱ヲ加右衛門ト云フ、京都ノ人ナリ、朱子學ヲ修メテ別ニ一派ヲ起シ、又神道ヲ究メテ垂加流ヲ創メ常ニ國體ヲ重ジ、名分ヲ論ジテ尊王ノ思想ヲ鼓吹セリ、其名一世ヲ動カシ門人六千ニ及ブト云フ、天和二年九月歿ス、年六十五、明治四十年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、闇齋ノ孫弟子玉木葦齋ガ、其高足谷川士清ニ贈ルトコロナリ、士清自ラ闇齋ノ語、道則大日貴靈之道、而教則猿田彦神之教也ヲ題セリ、巨眼魁軀、人ヲシテ肅然畏敬セシム、以テ其人ト爲リヲ想見スベシ、

「ペリー」畫像

「マッシウ、カルブレイト、ペリー」 Mathew Calbraith Perry ハ、夙ニ亞米利加合衆國

ノ海軍ニ勤務シ、「メキシコ」戦争ニ際シテ、赫々ノ功アリ、其東方政策ハ、大統領「フイルモア」ノ採用スル所トナリ、東印度支那日本海ニ在ル艦隊司令長官ニ任ゼラレ、嘉永六年六月三日、浦賀港ニ來リ、九日、久里濱ニ上陸シ、國書ヲ將軍ニ奉呈ス、翌年正月、再ビ江戸灣ニ入り、二月十日、初メテ横濱村ニ上陸ス、林大學頭輝等之ニ應接シ、三月三日、日米和親條約ヲ締結ス、是レ我邦ガ歐米各國ト條約ヲ締結セル始ナリ、

此ノ畫像ハ、明治四十二年六月、我練習艦隊ガ米國「シャトル」ニ碇泊セシ時ニ、「ペリー」ノ孫海軍少將「ロツジャース」、「ブレマートン」軍港ノ司令長官トシテ、我司令官ノ訪問ヲ喜ビ、記念ノ爲ニ贈リタルモノナリ、其服裝ハ、中佐ノ制服ナルベク、「ペリー」壯時ノ肖像ナラン、

室町時代風俗ノ圖

此ノ圖ハ、山城嵯峨清凉寺釋尊畫像記ノ中ヨリ採リタルモノナリ、畫像記ハ此ノ釋尊

ノ緣起ヲ畫キタルモノニテ、永正十二年、後柏原天皇ノ勅ニヨリ、青蓮院尊應法親王之ガ詞ヲ書カセラレ、狩野元信之ガ圖ヲ畫キタリト云フ、之ニ據レバ、此ノ釋尊ハ僧齋然ガ宋國ヨリ將來シテ、清凉寺ノ本尊トナシ、モノニシテ、此ニ載スルトコロハ、釋尊ヲ清凉寺ニ迎ヘシ時ノ有様ヲ畫キタルニテ、山門ノ前後ニ群集セル僧俗男女ハ、皆之ヲ迎拜セントスルナリ、板輿ニ乗レル貴婦人アリ、茶鐺ヲ荷ヘル老翁アリ、武士アリ、山伏アリ、ソノ事蹟ハ平安朝ノコトナレドモ、ソノ圖樣ハ室町時代ノモノナレバ、以テ同時代ニ於ケル上下貴賤ノ風俗ヲ徴スベシ、

南蠻人渡來ノ圖

此ノ圖ハ、凡ソ三百餘年前ノ頃、我が國ニ渡來セシ南蠻人ノ有様ヲ畫ケルモノニテ、原本ハ、六曲屏風ナリ、所謂南蠻人トハ、當時西班牙人葡萄牙人等ヲ指セル稱呼ニシテ、中ニハ、耶穌教ノ宣教師アリ、又通商貿易ニ從ヘルモノアリ、多ク西歐ノ文物ヲ我國ニ傳ヘタリ、本圖ハ、此等各種ノ人物ヲ描出シ、併セテ本邦上下ノ風俗ヲ觀ルニ

足ルベキ貴重ナル材料ナリ。

第十一輯

靈元天皇宸影

靈元天皇ハ、第百十一代ノ聖主ニマシマス、在位廿五年、正徳三年御落飾、享保十七年八月崩御アラセラル、寶算七十九、天皇資性英敏、歌文ニ長ゼサセ給フ、又久シク廢絶セシ立太子ノ儀ヲ復興シ、大嘗祭ヲ再興シ給ヒシハ、實ニ叡旨ニ出ヅ、此ノ宸影ハ、皇女榮子内親王ノ御筆ニカ、ル、

九條兼實畫像

九條兼實ハ、關白忠通ノ第三子ニシテ、九條公實家ノ始祖ナリ、博覽ニシテ典故ニ通ジ、朝廷ノ疑議アル毎ニ諮詢ニ與ル、源賴朝ノ幕府ヲ開クヤ、ソノ推薦ヲ以テ、議奏公卿

ノ首班トナリ、朝政ノ振興ヲ圖ル、後關白ニ補セラレ、太政大臣ニ任セラル、建仁二年出家シ、承元元年四月薨ズ、年五十九、

此ノ畫像ハ、九條公實家ノ所藏ニ係リ、古圖ニ據リテ、狩野山樂ノ臨摹セシモノナリト云フ、

夢窓國師畫像

夢窓、諱ハ疎石、京都天龍寺ノ開山ニシテ、後醍醐天皇ヲ始メ奉リ、光嚴、光明、崇光三院ノ御歸依深ク、北條高時、足利尊氏、同直義等ノ信仰亦篤ク、聲望朝野ヲ傾ク、正平六年(觀應二)九月寂ス、年七十七、

此ノ畫像ハ、天龍寺塔頭妙智院ノ所藏ニカ、リ、落款ニ、無等周位筆トアリ、周位ハ、疎石ノ侍僧ニシテ、肖像ヲ畫クニ妙ヲ得タリ、

黑田孝高畫像

黒田孝高ハ、官兵衛ト稱シ、入道シテ如水ト號ス、初メ赤松氏ノ被官タリ、後豊臣秀吉ニ從ヒ、常ニ帷幄ニ參シテ畫策セルトコロ多シ、天正十五年豊前國六郡ヲ賜ハリ、中津城ニ居ル、尋デ致仕シ、家ヲ子長政ニ讓ル、秀吉其才略ヲ惜ミ、左右ニ侍セシムルコト舊ノ如シ、文祿慶長兩度ノ外征マタ其顧問タリ、關ヶ原ノ役、孝高ハ九州ニ在リテ、石田三成ノ黨ヲ討チ、長政ハ東軍ニ屬シテ殊功アリ、乃チ大封ヲ筑前ニ受ケ、子孫相繼イデ福岡ニ治ス、慶長九年三月卒ス、年五十九、明治三十五年從三位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、黒田侯爵家ノ祖先ヲ祀レル福岡市光雲神社ノ所藏ニ係ル、眼光炯々人ヲ射、風貌眞ニ迫ル、以テソノ人物ヲ想見スベシ、

毛利輝元畫像

毛利輝元ハ、元就ノ孫ナリ、元就歿後、兩叔吉川元春、小早川隆景ニ輔ケラレテ、其遺業ヲ繼グ、後豊臣秀吉ニ仕ヘ、征韓ノ役首將トナリテ功アリ、從三位權中納言トナ

リ、五大老ノ一ニ舉ゲラル、關ヶ原ノ役起ルニ及ビ、徳川家康ニ抗セシヲ以テ、防長二州ニ減封セラレ、隱居シテ宗瑞ト號シ、寛永二年四月薨ズ、歲七十三、

此ノ畫像ハ、毛利公爵家ノ所藏ニ係リ、風姿堂々トシテ、西州ノ雄鎮タルヲ想見スベシ、

細川重賢畫像

細川重賢ハ、舊熊本藩主ナリ、延享四年封ヲ襲グ、重賢學ヲ好ミ、武ヲ尙ビ、堀勝名等ノ人材ヲ登用シ、或ハ時習館ヲ興シテ、文武ヲ勵マシ、或ハ備荒貯蓄ヲ行ヒテ、勤儉ヲ獎メ、專ラ國政ノ改善ヲ圖ル、之ニ依リテ、天明ノ飢饉ニ際シ、領内殆ド餓莩アルヲ聞カズ、當時米澤ノ上杉治憲ト共ニ、東西ノ名君ト稱セラル、天明五年十月卒ス、年六十六、明治四十四年從三位ヲ追贈セラル、

此ノ畫像ハ、細川侯爵家ノ所藏ニ係リ、重賢ニ信任セラレタル竹原玄路ノ畫クトコロナリ、原圖ニハ、天明六年三月十五日大徳寺前住秀山宗騏ノ賛アリ、

德川家齊畫像

德川家齊ハ、第十一代ノ將軍ニシテ、松平定信ヲ舉ゲ、銳意治ヲ圖リ、所謂寛政ノ治ヲ興ス、時ニ異國船屢來リテ、邊警ヲ傳ヘタレド、國內昇平ノ氣ニ滿チテ、文化ハ爛熟ノ極ニ達シ、所謂大御所時代ヲ現出シタリ、將軍職ニ在ルコト前後五十一年、天保八年職ヲ子家慶ニ譲リ、同十二年薨ズ、年六十九、諡シテ文恭院ト曰フ、家齊資性濶達ニシテ寛裕、臣僚悅服ス、

此ノ畫像、德川公爵家(家達氏)ノ所藏ニ係ル、ヨクソノ豐泰迫ラザルノ風格ヲ寫セルモノト云フベシ、

杉田玄白畫像

杉田玄白ハ、小濱藩ノ外科醫杉田甫仙ノ子ナリ、名ハ翼、字ハ子鳳、鵠齋ト號ス、玄白ハ通稱ナリ、年甫メテ十七、幕府ノ外科醫西玄哲ノ門ニ入ル、初メ支那ノ醫書ニ依

リテ、外科術ヲ研究セシガ、偶、江戸ニ來レル和蘭人ヨリ、和蘭文ノ解剖書ヲ得、其圖ノ精確ニシテ、能ク實驗ニ合ヘルニ感ジ、中津藩ノ醫師前野良澤ト謀リテ、之ヲ翻譯ス、解體新書即チ是ナリ、玄白ハ、實ニ我邦ニ於ケル西洋醫術ノ元祖ニシテ、又洋學開拓者ノ一人ナリト謂フベシ、文化十四年四月、八十五歳ヲ以テ歿ス、明治四十年、正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、門人大槻玄澤ノ所藏ニ係ル、其ノ剃髮セルハ、當時ノ醫師ノ風習ニ從ヘルナリ、座側ノ書冊ハ、左ナルハ、支那ノ醫書ニシテ、右ナルハ、和蘭文ノ醫書ナラン、

應仁亂合戰ノ圖

此ノ圖ハ、京都眞如堂緣起ニ載セタル應仁合戰ノ繪ヲ抄出シタルナリ、同緣起ハ、大永四年ニ成リ、畫工ハ、掃部助久國ニテ、詞書ハ、後柏原天皇ノ宸筆、及ビ青蓮院尊鎮入道親王ノ御筆等ナリ、サレバ應仁ノ當時ヲ距ルコト遠カラズ、描出セル東西兩軍激戰ノ狀ハ、其實況ヲ髣髴スベク、殊ニ楯ヲ列ネ、幕ヲ繞セル大將ノ陣所ノ如キハ、

以テ當時ノ軍營ノ制ヲ徴スルニ足ラン、

朝鮮使節來聘ノ圖

此ノ圖ハ、朝鮮使節來朝ノ際、幕府へ登城ノ途中行列ノ狀ヲ畫ケル者ナリ、朝鮮ハ豊臣秀吉ノ征伐ノ事アリシヨリ、深ク我國ヲ恨ミシカド、徳川家康其修交ヲ計リ、遂ニ彼ヨリ聘使ヲ送ルニ至レリ、慶長十二年使節始メテ江戸ニ來聘セシヨリ、文化八年其江戸ニ來ルヲ止メ、對馬ニテ接遇スルニ至ルマデ、使節ノ來朝セシコト前後十有一回ニ及ブ、

此ノ圖ノ原本ハ、子爵秋元春朝氏ノ所藏ニ係ル、筆者ノ氏名及ビ來朝ノ年次ヲ詳カニセザレドモ、圖中人物ノ風俗、畫風ノ年代等ヨリ考フルニ、蓋シ寛延元年ノ來朝ニシテ、秋元涼朝ガ應接ノ事ニ與カリシ時ノモノナラン、其屋轎ノ裡ニ端坐セル正使ノ盛裝、國書ヲ搭載セル書簡轎ノ華麗、旂旗ヲ掲ゲ刀仗ヲ輝カシ、意氣揚々タル從者ノ態度等、其行列ノ盛觀ヲ想見スルニ足レリ、

第十一輯

東山天皇宸影

東山天皇ハ第一百十二代ノ聖主ニマシマス、在位二十三年、寶永六年六月讓位、同年十二月崩御アラセラル、寶算三十五、天皇柔和謙讓ノ德ニ富マセラレ、仁德ノ君ト稱セラル、

日蓮畫像

僧日蓮ハ安房ノ人ナリ、初鎌倉松葉谷ニ草庵ヲ結ビテ法華經ヲ修行ス、會々蒙古ノ牒狀至ル、乃チ書ヲ草シテ諸宗ヲ排シ、法華經ノ弘通ニ勤ム、幕府ノ忌諱ニ觸レテ罪セラレ、終ニ佐渡ニ流サレ、赦サレ歸リテ後甲斐身延ノ山中ニ隱レ、弘安五年十月武藏池上ニ寂ス、年六十一、

此ノ畫像ハ伊豆玉澤妙法華寺ノ所藏ニ係ル、蓋シ日蓮在世中ニ畫ケルモノニシテ、日蓮ガソノ信徒曾谷教信夫妻ニ與ヘタルモノナラン、金襴ノ法被ヲ懸ケタル椅子ニ坐シ法華壽量品ヲ展ジ、目ヲ瞋ラシ口ヲ開イテ說法セル風貌以テ其人ヲ想見スベシ、原圖ニハ、左側下方ニ教信夫妻ヲ畫ケリ、

足利尊氏畫像

足利尊氏ハ貞氏ノ長子ナリ、元弘ノ際、弟直義ト共ニ後醍醐天皇ニ歸順セシガ、建武中興ノ世トナルヤ、遂ニ關東ニ據リテ叛シ、尋デ北朝ノ天子ヲ立テ、幕府ヲ開キ將軍トナル、正平十三年^(延文三)四月薨ズ、年五十四、此ノ畫像、原圖ニハ、上方ニ二代將軍義詮ノ花押アリ、以テソノ正確ナルヲ知ルニ足ラン、

後藤祐乘畫像

後藤祐乘ハ、足利義政近習ノ士タリ、事ニ坐シテ罪ヲ獲、發奮興起シテ鏤工トナリ、黄金白銀赤銅等ヲ以テ飾劍ノ具ヲ造リ、精巧一代ニ秀ヅ、義政深ク之ヲ優遇シ、以テ斯道ニ勉メシム、貽ス所ノ名器多シ、永正九年五月京都ニ歿ス、年七十三、

蒲生氏郷畫像

蒲生氏郷ハ、賢秀ノ子近江日野城ニ居ル、初メ織田信長ニ仕ヘテ女婿トナリ、尋デ豊臣秀吉ニ登用セラレ、伊勢松坂ヲ領ス、後會津ニ封ゼラレ東北ノ重鎮トシテ津輕南部等諸氏ヲ壓シ伊達政宗ヲ制ス、資性雋敏ニシテ機略ニ富ム、文祿四年二月大阪ニ卒ス、年四十、

此ノ畫像、原圖ニハ元和七年妙心寺逸傳ノ賛アリ、

近松門左衛門畫像

近松門左衛門、姓ハ楳杜、名ハ信盛、字ハ平馬、平安堂巢林子ト號ス、長門ノ人ナリ

一條攝政家ニ仕ヘ、有職故實ニ通ズ、尋デ致仕シテ大坂ニ住シ、淨瑠璃ノ著作ニ從事ス、著ス所ノ戯曲、前後百數十種ニ上リ、其技神ニ入ル、享保九年十一月歿ス、年七十二、

此ノ畫像、原圖ニハ自賛アリテ、傳記戒名辭世等ヲ記セリ、

荷田春滿畫像

荷田春滿、初ノ名ハ信盛、通稱ヲ齋宮トイフ、伏見稻荷神司信詮ノ次子ナリ、幼ヨリ穎悟、夙ニ皇道ノ陵夷ヲ慨シテ古典ヲ研究シ、著ス所ノ書數十部アリ、晚年國學校ヲ創立セント欲シテ果サズ、元文元年七月歿ス、年六十八、大正八年從三位ヲ贈ラル、此ノ畫像ハ、文政十三年羽倉信美ガ本居太平ノ委囑ニ依リ、族尙友ヲシテ畫カシメ、賛ヲ加ヘタルモノナリ、

林述齋畫像

林述齋、名ハ衡、通稱熊藏、蕉軒ト號ス、美濃岩村藩主松平乘繼ノ第三子ナリ、資性明敏ニシテ學才アリ、林信敬ノ嗣子ト爲リ、大學頭ト稱ス、幕府ノ諮問ニ應ジ、獻替スル所多シ、又聖堂ヲ修造シ、學政ヲ改革シ、林家中興ノ祖ト稱セラル、天保十二年七月卒ス、年七十四、大正四年從四位ヲ贈ラル、此ノ畫像ハ、述齋古稀ノ賀ノ時、親戚知己ニ頒チタルモノニカ、リ、原圖ニハ自題アリ、

高野長英畫像

高野長英ハ、陸奥膽澤郡水澤村ノ人ナリ、幼ニシテ江戸ニ出デ、蘭學ヲ修メ、尋デ長崎ニ赴キ、「シーボルト」ノ鳴瀧校舎ニ學ブ、後江戸ニ歸リ、醫ヲ業トシ、傍ラ蘭書ヲ翻譯ス、天保九年、米船モリソン號渡來ノ風説アリ、長英夢物語ヲ著シ、其處置ヲ論ズ、事忌諱ニ觸レ、獄ニ下サル、偶、獄舎火アリ、長英逃レテ終ニ歸獄セズ、嘉永三年十月晦日、再ビ捕ヘラル、ニ際シ自刃ス、年四十七、明治三十一年正四位ヲ贈ラル、

此ノ畫像ハ、椿椿山ノ筆ニカ、ル、

七〇

徳川慶喜畫像

徳川慶喜ハ、徳川十五代ノ將軍ナリ、水戸藩主徳川齊昭ノ子、出デ、一橋家ヲ嗣グ、慶應二年將軍家茂ノ薨ズルニ及ビ、入リテ將軍トナル、翌年職ヲ辭シ、政權ヲ奉還ス、後公爵ヲ授ケラレ、大正二年十一月薨ズ、年七十七、此ノ畫像ハ、將軍在職ノ時撮影シタルモノニカ、ル、

安南渡航ノ圖

桃山時代ヨリ江戸時代ノ初期ニ亘リ、我國民ノ勢力ハ著シク海外ニ發展シ、殊ニ南洋方面ニハ、商船ノ往キテ貿易ヲ營ムモノ多ク、所々居留地ヲ造リテ、日本町ト稱ス、此ノ圖ハ、當時安南貿易ニ従事セル京都ノ商人、茶屋四郎次郎ノ商船ガ交趾即安南渡航ノ狀ヲ畫ケルモノニシテ、原圖ニヨレバ、搭乗人數凡三百人、大サ横四間半、長二

十五間程アリ、船ノ前ニ畫ケル島ハ、原圖ニ「とろん岩島」トアリ、即今ノツランTouraneニ當ル、其對岸ニ家屋ノ櫛比セルハ、日本町ニシテ、兩側三町餘アリ、コノ邊リニ傘ヲ立テタルハ市場ニシテ、其傍ニ漁師町アリ、其繁華ノ狀想見スベシ、

索引

(括弧内ノ數字ハ所屬ノ輯ヲ示ス)

淺井長政(十).....三	榮西(七).....三	桓武天皇(六).....七
淺野長政(七).....三	織田信長(二).....九	龜山天皇(九).....五
足利義滿(一).....二	織田信忠(十).....五	蒲生氏郷(十二).....七
足利義教(二).....八	大内義隆(九).....五	九條兼實(十一).....五
足利義政(三).....四	大坂夏陣(九).....五	空海(四).....六
足利義晴(六).....六	應仁亂合戰(十一).....三	黑田孝高(十一).....五
足利義輝(八).....六	荻生徂徠(九).....七	源空(六).....七
足利尊氏(十二).....六	加藤清正(五).....三	小早川隆景(六).....六
安南渡航(十二).....七	賀茂眞淵(七).....七	後光明天皇(一).....一
伊藤仁齋(八).....四	狩野探幽(六).....三	後三年合戰(六).....三
伊能忠敬(四).....三	貝原益軒(七).....三	後白河天皇(二).....七
池田光政(十).....五	春日局(三).....五	後醍醐天皇(一).....一
上杉治憲(三).....七	片桐且元(九).....五	後藤祐乘(十二).....六
上杉謙信(四).....九	荷田春滿(十二).....六	後鳥羽天皇(四).....七
	鎌倉時代風俗(九).....九	後水尾天皇(二).....七

後桃園天皇(七).....三	高野長英(十二).....六	德川慶喜(十二).....七
後陽成天皇(三).....三	澤庵(八).....四	豐臣秀吉(一).....三
孝明天皇(五).....三	武田信玄(一).....三	豐臣秀吉夫人(二).....一
最澄(五).....三	伊達正宗(七).....三	豐臣秀吉生母(四).....三
神原康政(四).....三	近松門左衛門(十二).....七	中江藤樹(四).....二
佐久間象山(九).....四	朝鮮使節來聘(十一).....六	南蠻人渡來(十).....五
三條西實隆(一).....三	長曾我部元親(八).....四	二宮尊德(二).....二
聖德太子(三).....三	天海(十).....五	日蓮(十二).....五
末吉船(八).....四	寺小(五).....六	仁孝天皇(四).....八
杉田玄白(十一).....三	德川吉宗(一).....六	支倉六右衛門(一).....四
聖堂講釋(六).....三	德川光圀(一).....六	花園天皇(八).....五
雪舟(四).....九	德川家康(三).....五	塙保己一(六).....三
平重盛(二).....八	德川家康生母(五).....四	林道春(二).....一
醍醐天皇(七).....三	德川家光(五).....四	林述齋(十二).....六
大名行列(九).....三	德川齊昭(五).....五	東山天皇(十二).....五
	德川家齊(十一).....三	平田篤胤(六).....三

福島正則(六).....二九	松平定信(二).....二	吉田松陰(八).....四三
藤田東湖(四).....三三	源頼朝(三).....三	頼山陽(五).....二五
藤原惺窩(一).....四	源頼家(三).....三	林平(二).....二
ヘ	ム	レ
ベリ横濱上陸(八).....四	夢窓國師(十一).....五九	靈元天皇(十一).....五八
ベリ一覽應(七).....三八	室町時代風俗(十).....六	渡邊峯山(五).....二六
平治物語繪卷院御所	明治天皇御即位式(八).....四	
夜討(七).....三七	モ	
ホ	毛利元就(三).....一四	
保科正之(三).....一六	毛利輝元(十一).....六〇	
北條時頼(一).....二	蒙古襲來(五).....二六	
北條早雲(二).....九	本居宣長(三).....六	
北條氏康(三).....一四	桃園天皇(十).....五一	
北條氏綱(七).....三五	ヤ	
北條實時(十).....五	山崎闇齋(十).....五五	
細川重賢(十一).....六二	山田長政(九).....四七	
マ	山内一豊夫人(一).....五	
前田利家(二).....九	ヨ	

